修旅研究発表会

共催 全修協 野田中

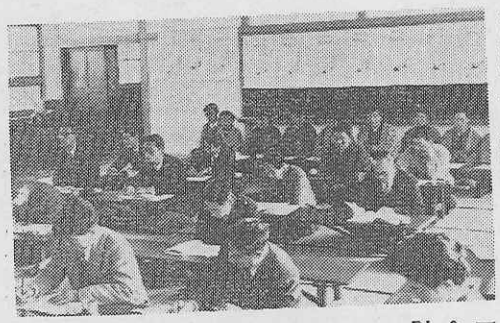
東北及福島縣下より多数参加

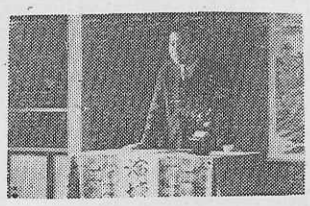
真剣な発表と討論

PTAも終日熱心に傍聴

全国教職員の注目のうちに福島県信夫郡吾妻村野田中学校において開催された全修協と野田中学共催の修学旅行研究発表会は、県内外より教職員及PTA等百名近い参加者を得て、去る十二月七日午前九時より開始された

まず、主催者側として当番校の寺島良光校長、全修協山本種一理事長の挨拶の後、来賓の中潟幸雄氏（福島市教育委員会）が、児童生徒が楽しみにしている修学旅行を村々長）は、児童生徒の校外教育立派な学校行事にするため、全県下の小中高の教師が一堂に会し、研究成果を公開の上で開催された事は非常に有意義あると、感謝された。続いて加藤林氏（福島県教組委員長）は、社会を体験する特別教育活動として高く評価されている修学旅行に関して、多数の先生が集り熱心な研究会を開かれ、この成果が県内のみならず広く全国に拡がることを希望すると挨拶した。次に東京都教委指導主事の佐野政雄氏の祝電披露の後研究発表に移った。





（上）熱心にメモする発表会場の参加者（中）福島県教委指導主事遠藤氏の講演（下）PTAのお母さんたち

須賀川市立第一小学校教諭　会田　一二氏

「本校における修学旅行、遠足について」

学校行事の一環として、学年別、見学地別、季節別に詳細な計画表が立案、実施されている。特にこの学校の特長は、教科課程を縦と横から密接な結合をはかり、校内教育と校外教育とが一体となって行われている点である。

会津若松市立神指中学校教諭　佐藤　雄一氏

「本校における修学旅行の計画と反省」

学校独自の詳細な指導細案のもとに、本年六月二十二日に実施した二泊三日間の京浜、江の島、鎌倉方面の修学旅行を中心に、事前手配、事前調査と指導、旅行中の指導、事後の反省等、神指中学の修学旅行の実態を色々な引例のもとに発表された。

福島県立磐城女子高等学校教諭　荻野　勝三氏

「臨時列車による修学旅行について」

本年度実施した事例により、臨時列車の特色や欠点を挙げながら説明された。特に参加生徒の経費の点で、レインコートや靴等を新調したり、餞別を一万円も貰った生徒の話には、列席のPTAのお母さん方の関心を強く引いた。また列車ダイヤの決定が遅れて、日程の決らない事等も問題になった。

次いで参加者よりの質疑応答があり、野田中学三年生の感想文が朗読されたが、予定のバスが到着しないので見学予定が狂ったり、列車の座席がバラバラになつて楽しい旅行の気分がこわされたのを訴えて先生達に反省を与えた。

福島県信夫郡吾妻村立野田中学校教諭　酒井　義正氏

「修学旅行の道徳指導について」

農業が六十%を占める本校生徒は梨の人工受精の手伝料を貯金して旅費に当てている。また、旅行経験はほとんど県内のみで、長距離旅行の実施には、特に乗物、宿泊見学等の事前指導の必要があつた次いで質疑応答の後。

福島県教育委員会　指導主事　遠藤　尹雄氏

講演と講評

教科課程に入れられた修学旅行の取扱い方について、十二に亘る指導項目を、わかり易く話されたのは有益であつた。次いで講評に移り、発表者の温かい愛情と指導や非常時の処理がよく配慮されていて、今日の発表会は修学旅行の改善向上に非常に役立つたと結び、午前中の日程を終了した。昼食後は隣接の野田小学校において、修旅の映画、スライドを上映、午後二時半盛会裡に研究発表会は終了した。

旅行地選定の問題点（一）

松木　茂　東京都立石神井高等学校長

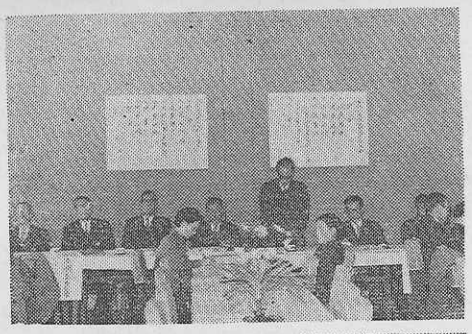
修学旅行は確かに中学校や高等学校生活における最大行事の一つであつて、生徒にとつては学校生活中最もあざやかに記憶される事柄である。学校としてもその多方面にわたる教育的効果から見て、或はそれに払はれるところの関係者の努力や又それに要する経費の多額な点から、教育計画上の最大関心事の一つであることに違いないのである。その上それに付いて廻るといつてもよい、生徒の行動上における盲点の処理に思い及ぶ時、殆んどこのような校外への進出はなくもがなと思はれる程の困難を伴う行事である。しかし一方困難を伴う仕事は取扱う方法が適切であれば却つて教育上に裨益することが安易な仕事以上であるし、危険なことも事前にそれに対処する方法が万全であれば随伴する危険を未然に防ぐというよき教育材料にもなるのである。

現在行われている修学旅行の回数とそれに参加する人員とを考え合せるとむしろ、生徒事故の頻度は甚だ低く、挙げられた教育的効果が遥かに多いものと考えるべきはでなかろうか。

教育界の指導者を網羅

大阪支部の発会式

夜来の雨と濃霧の晴れ上つた温かい十二月三日、大阪市上六の浪速荘に大阪市全教育界のお歴々を会員にした支部発会式が山本理事長、岡本常務理事、馬場理事、芦田監事出席のもとに盛大に挙行された。



（上）大阪支部発会式　山本理事長挨拶
（下）参会者一同の万歳三唱

結成準備会

午前十時三十分より始められ、先づ世話人代表として石川為蔵氏より支部結成までの経過報告があり議長に石川氏が推されて協議に入つた。

支部規約案

を宮道氏が説明、一括審議に移つた。名称、役員の関連性、事務所等の質疑応答の後一同規約を承認、役員選出に移り、これも議長一任で承認され準備会を終り一旦休憩に入つた。

支部発会式

原田事務局長の開会の辞に次いで石川支部長より役員紹介の後、支部長の重責を果せる様御指導御鞭撻御支援を願う旨の挨拶があり、川本理事長より左の如き挨拶があつた。

「先輩、同僚の温かい気持に包まれて本日支部発会式の出来た事は誠に愈しい。漸く全国組織も固まつたのでこれを機会として更に婦人層、青年層にまで呼びかけたいと思つている。第一回総会の時、文部省の代表や日教連出身の参衆議員より教育界の共通の広場として協会の存在を喜ばれたが今後共そういう心構えで進みたいと思つている。又この度新しく教科課程について御意見を承りたい」

次いで、来賓祝辞に移り、浜田府教育長代理の館野府体育課長より色々な修旅の障害を克服してゆく為の研究団体として、支部の発展を祈る旨の挨拶があり、また市教委代表の荒賀指導主事より同様の挨拶があつた。全修協近畿ブロツクを代表して岡本兵庫県支部長より、大阪支部メンバーの偉容をたたえ、今後は本部、支部が有機的に密接な連絡の上、修旅の困難な問題を解決してゆきたい旨の挨拶があり、次に元大阪府教委水川清一氏の、修旅研究指定校の存在や修旅実施上の諸問題と本協会との関連についてユーモアたつぷりのはなしに、なごやかな空気が会場に漲つた。

校長代表として志賀平氏（住吉高校長）より、この支部結成はあたかも砂漠の孤児が救われた様な力強いもので、今後修旅問題には互に協力してゆきたい旨の話があつた。

正午祝宴に移り、次の諸氏のテーブルスピーチがあつた。

山川信夫（府立甲津高校長）

学級毎に修旅を実施している実例。

林佳三氏（府立市岡高校長）

遊覧コースでない学究的なコースを全修協で考えてほしい。

中尾新六氏（市立南中学校長）

ローカル線を利用する場合の輸送、宿舎を考慮して、理想的な修旅コースを全修協に作製依頼その他、日程や費用や事故問題等の話が出て、終始和やかな会合が続けられたが、午後一時頃名残りを惜しみつつ散会した。

本部事務局

総務部長　加藤為治

希望の新春を迎えましてまことに御目出度うございます。ここに謹んでお慶びを申し上げます。

輝かしい躍進の第二年目を、希望と若さと、そして努力で、充実した本部事務局総務部たらしめたい所存であります。諸賢の御教導と御鞭撻を切に御願いいたします

組織部長　藤村忠男

法人として発足しましてから、この一年間に四十もの立派な支部が誕生しました。不尚、組織のことなど何もわからない私が、一番重要なこの部門を担当し、皆様に御迷惑をかけつ放しで、ここに新年を迎えてしまいました。

本年こそは、大いに勉強し、大先輩の皆様から御指導を頂いて仕事をして行きたいと考えております。

その他、日程や費用や事故問題等をして行きたいと考えております。皆様の御鞭達と御協力なくしては十分に仕事を遂行できませんので何卒、本年もよろしくお願い致します。

事業部次長　山本　実

本年は、中学校を含めた修旅実態調査、研究指定校、指導書並手引書、研究座談会、各種研究物、映画スライド作製、研修旅行、図書館設備充実運動、懸賞論文、写真コンクール、機関紙〃旅と文化〃等々千手観音そこのけの、眼の回るような忙しい年になりました。皆様の御指導で、シツカリやりますから、どうぞよろしく。

編集後記

修旅座談会での支部長各位の発言を、紙面の都合で全部掲載できなかつた点をお詫びします。尚各地の修旅ニュースは勿論、随筆、研究、主張その他写真、絵画など皆さんの力作の御投稿をお待ちしております。

（山本）

新刊紹介　一目でわかる修学旅行の資料

修学旅行調査統計
第1篇 高等学校

B4判・美麗表紙・本文図表共40頁
非売品　但し希望者には実費にて頒布します。
在庫数僅少ですから早くお申込み下さい
（50円　〒10円）

発行行　財団法人 全国修学旅行研究協会
東京都千代田区神田神保2の30　振替口座番号 東京36337番

謹賀新年
小学館
東京都千代田区神田一ッ橋二ノ五
大代表(30)二三一一

謹賀新正
近畿日本ツーリスト
本社 東京都千代田区丸ノ内一の一
国際観光会館内 TEL(23)5561~9